

二式大型飛行艇



世界で唯一
残されている実機



▲二式大艇が展示されている海上自衛隊
鹿屋航空基地史料館

世界一の大型飛行艇

二式大艇は、当時の日本の航空・製造などのあらゆる技術を結集して設計・開発され、世界一の高性能を誇った飛行艇です。昭和17年に正式採用されて以降、偵察・哨戒・輸送など長大な航続距離を生かした任務で活躍し、終戦までに合計167機が製造されました。

飛行艇としては前例のない7，200㎞という航続距離と、その巨体からは考えられない最高速度453．2㎞／hという高性能を誇り、戦後、香川県にあった旧詫間基地に残されていた二式大艇1機が横須賀に空輸され、米海軍に引き渡されました。米海軍はその二式大艇をアメリカ本国に空母で移送し、各種調査を実施。二式大艇の調査に同行した米軍のシルバー中尉はその性能に驚嘆し、「日本は戦争に負けたが飛行艇では世界に勝った」と賞賛したと言われています。

昭和54年に米軍から返還された二式大艇は、東京都の「船の科学館」で約2年の年月をかけて修復・復元作業が実施された後、保存展示されていました。その後、平成16年4月に海上自衛隊に寄贈され、現在まで海上自衛隊鹿屋航空基地史料館で展示されています。



鹿屋の地に
ゴジラが迫りくる。

ゴジラ-0.0

ゴジラと鹿屋市がタイアップ企画を展開

1954年11月3日、シリーズ1作目『ゴジラ』の公開以降、日本はもとより海外でも高い評価と人気を誇ってきたゴジラ。2023年11月3日に、ゴジラ生誕70周年記念作品として公開された前作『ゴジラ-1.0』は、第96回アカデミー賞®でアジア映画として初の視覚効果賞を受賞するなど、世界的に大きな話題を集めました。その待望の続編『ゴジラ-0.0』が今年11月3日から公開。前作から2年後の世界を舞台に、再び姿を現したゴジラとの新たな戦いが描かれています。

そんな同作の重要局面で登場するのが「二式大型飛行艇（通称・二式大艇）」。実は二式大艇の世界で唯一の現存機があるのが、ここ鹿屋市なのです。そこで本市の魅力を市内外を問わず、もっと多くの人に知ってもらうために、映画の公開に合わせて『ゴジラ-0.0』とタイアップし、市内のあちこちでゴジラに関連した様々な企画を展開していきます。

TM & © TOHO